

価値創造の歩み

キヤノンは創立以来、「進取の気性」を常に発揮し、時代の要請に応えるイノベーションによって成長を果たしてきました。国際化と多角化という基本戦略を推し進めながら、競争力のある製品やサービスを次々と世に送り続けています

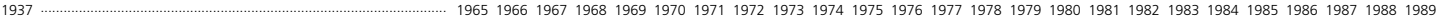
価値創造に向けた考え方

- 時代を先取り、新技術で社会の期待に応える製品・サービスを創出
- より多くの人々が豊かな生活を実感できるように支援
- より優れた環境配慮・品質・コスト・納期を常に追求

連結売上高推移

国際化
早くから国際展開をはじめ世界ブランドへと成長

■ 日本 ■ 米州 ■ 欧州 ■ アジア・オセアニア ■ 海外※
※ 1971年以前は国内以外の売上高は海外として一括で集計



経営計画の変遷



社会課題・世の中の動き



製品・事業展開および活動

1961 「キヤノネット」発売
簡単に写真撮影ができる自動露出機構と低価格の実現により、爆発的にヒット。写真の一般化に寄与



1970 国産初普通紙複写機の発売
米国・ゼロックス社の特許を使わない普通紙複写機の製品化に成功。オフィスオートメーションの進展に寄与



1984 世界最小・最軽量レーザープリンターの発売を開始
デスクトップパブリッシングの実現に貢献し、以降レーザープリンターは爆発的に普及



1964 世界初テンキー式電卓「キャノーラ130」発売
桁ごとに10個のボタン(キー)が必要だった数字入力を、「テンキー」に集約。以降、この方式はデファクトスタンダードとなる



1970 国産初半導体露光装置を発売
カメラレンズで培った技術を活用し、製品化に成功。その後、世界で初めて1ミクロン以下の焼付線幅を実現するなど、半導体デバイスの発展に貢献

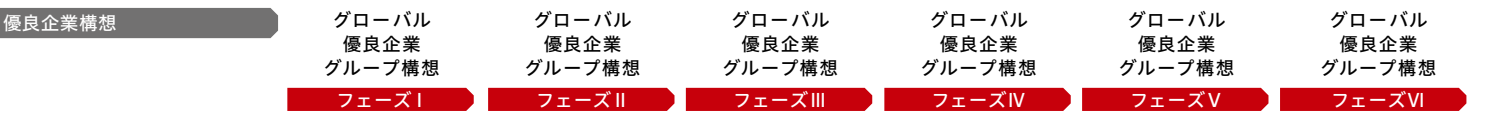
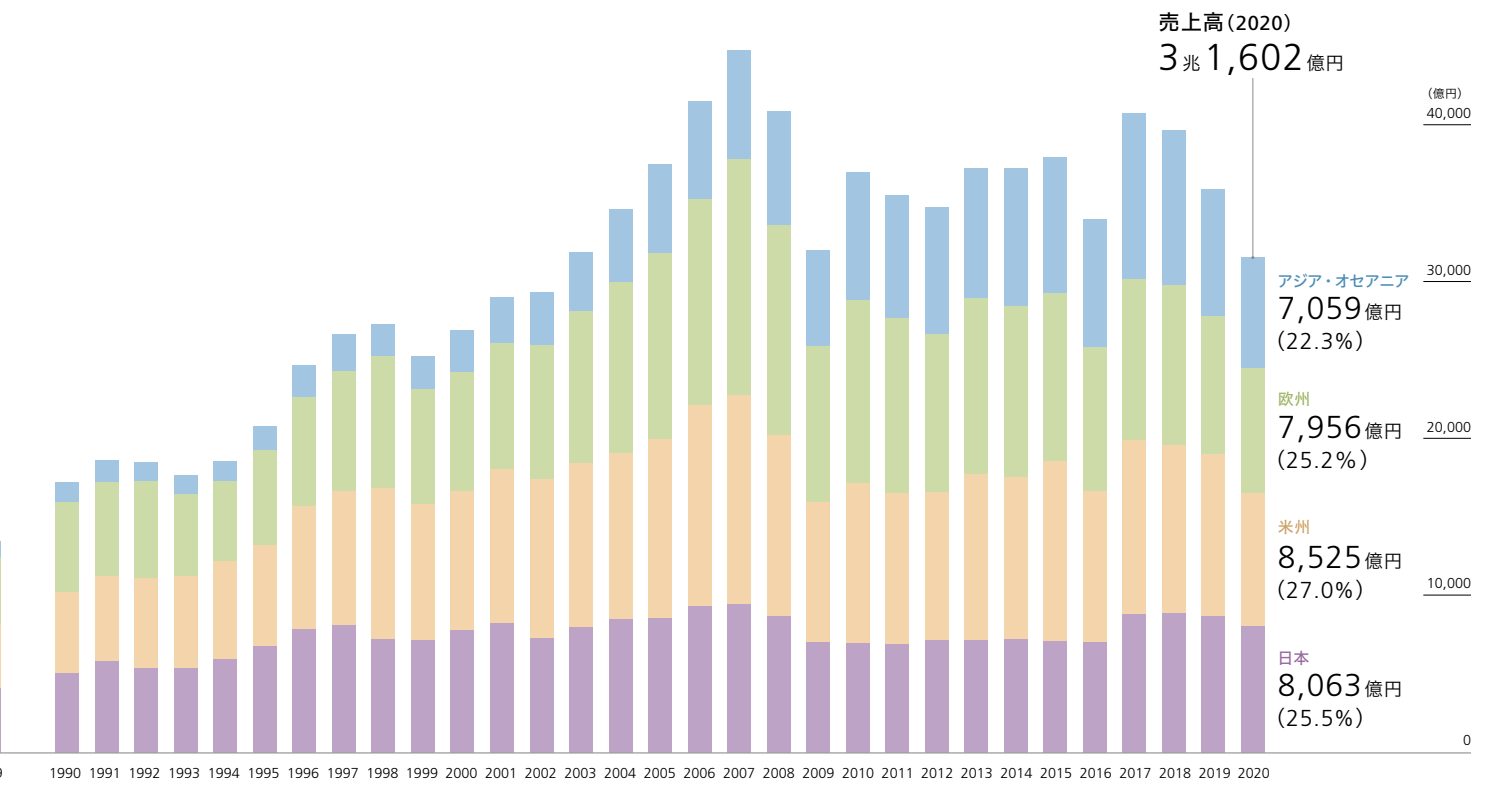


1985 世界初バブルジェット方式インクジェットプリンターを発売
その後、小型化・フルカラー化に優位性をもつ技術として発展。家庭での高画質フルカラープリントが普及



多角化
既存技術と時代の先端技術を組みあわせて新事業を創出

1987 世界初フルカラーデジタル複写機「カラーレーザーコピー1」発売
モノクロコピー全盛の時代に、高画質フルカラーコピーを実現し、カラーコピー時代を切り拓く



1990年代

2000年代

2010年代

ITの発達に伴うデジタル化、ネットワーク化

AI・IoTの普及・拡大

環境問題への意識の高まり

1990

トナーカートリッジリサイクルプログラムを開始

大量消費されていたトナーカートリッジをいち早く企業の課題として捉え、リサイクルを開始

1996

世界最小のアドバンスドフォトシステム(APS)フィルムカメラ「IXY」発売

斬新かつ高品位なデザインで、日常持ち運べるカメラとして爆発的にヒット

1998

医療用X線デジタル撮影装置の発売を開始

フィルムレスで、撮影後すぐの撮像表示を実現するとともに、現像液を不要にし、環境面でもブレイクスルーに



CXDI-11

2000

ネットワーク複合機「iRシリーズ」発売

紙文書と電子文書の入出力のスムーズな連携を実現。紙文書の電子化、遠隔地からの出力などが可能に

2000

世界最小・最軽量コンパクトデジタルカメラ「IXY DIGITAL」発売

スタイリッシュで手軽に持ち運べる高画質デジタルカメラを実現し、大ヒット



IXY DIGITAL

2007

産業機器分野を拡大

キャノントッキ(当時 トッキ)がグループ入り。2010年代には、有機ELディスプレイ製造装置の実用化に成功し、有機ELディスプレイ普及に寄与

2010

デジタル商業印刷事業を拡大

キャノンプロダクションプリンティング(当時 オセ)がグループ入り。刷版のいらぬデジタル印刷を推進

2015

ネットワークカメラ分野を強化

世界大手のアクシスがグループ入り。社会の安全を守る分野でプレゼンスを拡大

2016

メディカル事業を拡大

キャノンメディカル(当時 東芝メディカル)がグループ入り。患者さんにも医療従事者にも貢献する事業を展開

2018

自動リサイクル工場「キャノンエコテクノロジー」開所

クリーンな環境でオフィス向け複合機やトナーカートリッジなどのリサイクルを行う工場と体験型ショールームにより、環境活動の発信拠点に